

令和5年度

八万南学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

思考力・判断力・表現力の育成を目指した指導方法の工夫
～効果的なICT機器の活用を目指して～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員【校長】①大知大【教頭】②元木誠子 ③東出稔【教務】④佐々木望【研修】⑤池田佳世
須川 麻衣	【各学年等】⑥村田莉子⑦吉成有紗⑧東條輝江⑨安藤仁美⑩松本拓也⑪土橋美智代

校長

大知 大

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識を問う問いかけには、答えることができる児童が多い。 ●習得した知識・技能を活用することには課題がある。	①当該学年の、基礎的・基本的な知識・技能を概ね習得し、ミニテスト等で80点以上の児童の割合が8割以上。 ②身につけた知識・技能を、他の学習や生活の場面で活用することができる。	・発達段階を考慮した反復練習やミニテストを継続的に実施し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。 ・学習の系統性を意識し、問題解決に向けて知識・技能を活用して考える時間を設定する。 ・意識的に読書の時間を確保する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○モデルを示すことで、自分の思いや考えを表現できるようになってきている。 ●根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現し、深め合うことに課題がある。	①目的や課題に応じて、根拠や理由を明らかにしながら自分の意見を出し合い、深め合うことができる。 ②タブレットや図書、新聞等を活用して情報を収集し、集めた情報を整理することで、自分の考えを明確にすることができる。	・学習内容や目的に応じたタブレットの使い方を提示したり、関連図書を教室に配置するなどして、児童が取捨選択して活用できるようにする。 ・タブレットの活用について共通理解を図り、効果的にタブレットを活用し、自らの考えを深めたり、自分の考えを伝え合う場面を設定したりする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●自らの学習課題を把握し、解決できるように取り組むことは十分ではない。	①学習規律を守り、学習に対する意欲的な姿勢を身につける。 ②自らの学習課題を把握し、解決に向けて取り組むことができる。	・学習規律(「チャイム着席」「学習の準備」「聞く態度」)の指導を徹底する。 ・効果的な資料の共有や学習活動の工夫を行い、より深い学びの実現に向けて、授業改善を行う。 ・自らの学習課題を解決できるような学習方法を提示する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

